

皆さん、こんにちは。残暑が続いてますがいかがお過ごしですか？

このメールは、メール版「カァディスからの手紙」の読者だった方に宛てて発信  
しています。

実は先日、その読者だった方のお一人から、ナロー・ボートの旅はどうなったの  
か？と聞かれました。なるほど「手紙」を終了する直前、日本に帰る途中イギ  
リスへ寄って運河の旅をする計画だ、ということをお話しましたね。  
その方から、その後その運河の旅の様子を聞くのを楽しみにしていたのだ、とい  
うことをお聞きして、そうだった、それは申し訳ないことをした、ほかにもそう  
思ってた方がいるかも知れない、と気がつきました。

そこで、遅ればせながら、その運河の旅の顛末をまとめてみようと思いました。  
最近とみに怪しくなった記憶力、特に近い過去ほど忘れてしまう困った状態です  
から、自分たちのためにも何らかの記録を残しておきたいと思ったのです。  
もう、かれこれ丸一年前のことで、臨場感に乏しいのは仕方ありませんが、長ら  
くお付き合い下さった「手紙」の読者の方々にその「番外編」としてイギリス独  
特のナロー・ボートによる運河のクルーズを紹介いたします。

一回の容量が1メガ・バイト以内に収まるよう何回かに分けてお話ししようと思  
います。しばしの暑さしのぎになれば幸いです。 R・N

\*\*\*\*\*

## 「カァディスからの手紙」番外編

### ナロー・ボート巡航記（運河の旅）・No.1 (18/Aug/2007)

ナロー・ボートでの運河の旅について、サワリだけは去年「カァディスからの手  
紙」の最後の方で一度お話ししましたね。だから一部は重複しますが、改めてそ

の概要から始めます。まず、ナロー・ボートとは何か？から。

イギリスの運河の多くは、ごく幅の狭いもので、鉄道も自動車もなかった時代、運河に浮かべた舢舨(はしけ)を運河に沿った小道から馬に曳かせて物資を輸送していたのです。

勿論、運河建設の本来の目的は物資輸送でしたが、鉄道ができ、自動車輸送も盛んになると、その本来の目的である物資輸送はこれらに取って代われ、現在のイギリスの内陸運河の多くは、ほとんど観光的な意味しか持っていません。

しかし、オランダ、フランス、ドイツ、ベルギーなどの諸国ではいまだに運河は物資の輸送手段として立派に現役です。

その一つの理由はこれらの国々の運河は幅が広く大型の舢舨で大量輸送が可能だからでしょう。積載量一万トンなんていう舢舨も珍しくありません。

イギリスにもブロード・キャナル(broad canal)と呼ばれるやや幅の広い運河もありますが、上記の国々のそれと比較すると問題にならず、物資輸送の手段としてはテムズ河下流域などごく一部を除くとほとんど死んだも同然のようです。

オランダやベルギーは比較的国土が平たんですが、ドイツ、フランス、そしてイギリスなどは土地にかなりの高低差があります。高低差のある土地を乗り切るためにロック(lock=閘門)と呼ばれる装置が考えられています。

皆さんもよくご存じのパナマ運河にも使われている仕掛けで、低い位置の水面から高い位置の水面へ、又はその反対に移動するにはどうしても必要なものです。

言わば水の階段ですが、イギリスの運河の多くは、このロックの幅が7フィート(2.13m)しかなく、したがって、そこを通過するためにはそれより少し狭い幅の船でなければならないのです。まあ、ざっと2m丁度と考えればいいでしょう。だから、こういう幅の狭い特殊な形をした船が、イギリスの運河を行き来

する標準的なものになったのです。

そしてその幅の狭さからナロー・ボート(narrow boat=幅の狭い船)と呼ばれ、

ロック幅が7フィートの運河をナロー・チャンネルと呼びます。

なお、ナロー・ボートの最大の長さは70フィート(21.34m)で、これもロ

ックの構造による制限です。

前述のブロード・チャンネルとはロックの幅が7フィート以上のものを指し、そこ

では幅広のワイド・ビーム(wide beam)と呼ばれるチャンネル・ボートも航行して

います。それらはいわゆる幅が12~14フィートで居住性もぐっと良くなります

が、狭い運河には入れず行動範囲はかなり制限されます。

また、広い運河の一部は今でも物資輸送に一役買っているところもありますが、

ナロー・ボートしか走れない狭い運河は、物資輸送手段としては最早顧みられず

ほとんどプレジャーのためのものと化しているのです。

だから狭い運河水面にいるボートは全部遊んでいると思っていいいわけで、誰に気

兼ねする必要もナイということになります。ナロー・ボートは完全にオアソビと

割り切れるわけです。せっせと働いている人の隣で遊び呆けるのはやはり気がひ

けますからネ。こりゃマルビの発想かナ。

イギリスの狭い運河の多くは一時ほとんど放置され、荒れ果てていたらしいです

が、近年になってプレジャー用として、または文化遺産として、修復・保存され

て日の目を見るようになったようです。

同時に、運河脇の昔船を曳かせた馬道(tow path=トウ・パス)も修復され自然遊

歩道として維持されています。トウ・パス・ウォーキングは一つのスポーツと

して一般に認知され、そのガイド・ブックさえも多数出版されています。



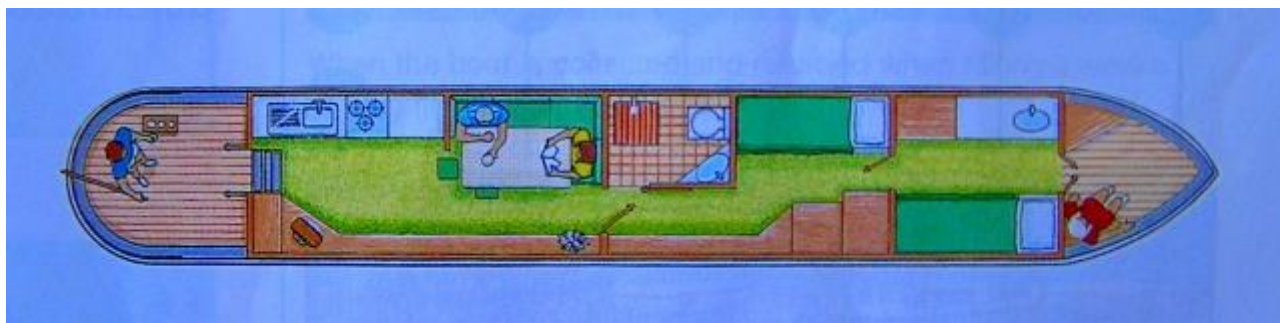
上の写真のように、昔はトウ・パスから馬に舟を曳かせたのです。このボートは観光客を乗せて短時間の運河見物をさせるものですが、これもナロー・ボートです。ここでは土手に雑木が生えてしまって引き綱が引っ掛かっていますが、昔はこんなことはなかった筈です。

さて、クルーズに使うナロー・ボートの外観は上の写真と似たようなものですが内部の構造はこんな具合です。下の二隻はそれぞれ内部配置の違うボートです。

外観はどの船もほとんど同じでペンキの色が似ていると見分けはつきにくい。

また、長さが同じようなボートでも、内部配置の設計は色々あって、それによって居住性はずいぶん違います。





まずこれは、平面図。もちろん右が前、左が後ろです。前方から三角形の小さなバウ・デッキ(bow deck=前部甲板)。続いてシングル・ベッド二つと洗面台、ロッカー・スペース。二つ目のベッドの後ろはトイレとシャワー。そしてダイニング・テーブルに続いてギャレイ(galley=船ではキッチンとは言いません)。

一番後ろはスターン・デッキ(stern deck=後部甲板)で、この形のものはクルーザー・スターン(cruiser stern)と呼ばれます。甲板の後半分の周りに手摺が回っていて、操船者は落水の危険から保護されます。

なお、ダイニング・テーブルはダブル・ベッドに変更可能です。



次に立体的構造図。このボートは前方にダイニングとギャレイ、次にトイレ・シャワー、その後ろにダブル・ベッドとロッカー。もちろんこちらもダイニング・

テーブルはダブル・ベッドになります。またこの後部構造はセミ・トラディショナル・スターン(semi-traditional stern)と呼ばれる形です。

この二隻は長さ40～50フィートで、4名までのグループ用の貸ボートとしては標準的なものですが、実際に長期間快適に過ごせるのは2名でしょう。

下のボートはカップルに向いているでしょうし、上なら同性の友人でも……。ただし、イギリスの貸ボート業者は、家族でない同性だけのグループへの貸し出しはしない、と言うところが多いのです。どうしてでしょうかねー。

このサイズは、二人だけなら一週間でも一月でも、いえいえ一年でも快適に暮らせると思います。少なくとも私たちは、そう思っています。宝くじさえ当たればネ……。

こんな風なボートが運河には数多く浮いていますが、それらは貸ボートもあり、個人所有のものもあり、しかも完全にボートの上に住み着いてしまっている人も多数いるのです。豪華装備の素晴らしい船もあれば、どう見ても水上ヒッピーというようなみすぼらしい船もあります。

もちろん私たちのクルーズは貸ボート、一定期間ボートだけを借りるのですが、借りる期間も通常最短期間は一週間。一か月連続なんてのが当たり前の世界。長期休暇をとるのが難しい忙しい日本人向きではない、と言えそうですが、ご安心あれ。ショート・ブレイク(short brake) といって3～4日だけ借りることも可能で、これなら一週間の休暇でもぎりぎり何とかかなりそうですね。

ところで、私たちは去年8月31日スペインを離れ、9月1日に日本から来る友人夫妻、もう半世紀の付き合いが続いているY君夫妻とロンドンで合流し、一週間のクルーズをしようと、正月直後から相談が始まっていました。

時期は？ 水域は？ どんなボートを？ と日本～カアディス間でこの件に関して何度メール交換をしたことでしょう。

そして5月初めには日程も決まり、水域とボートはそれまでにさんざん相談を重ねていたのので5月7日には貸ボートの予約をすることができました。

そんなに早くから？と思うでしょうが、クルーズをする9月第一週はまだまだ運河は混んでいる時期で、ボートの予約は早めに押さえておかないと、こちらの希望するボートが塞がってしまう可能性があるのです。

私たちが予約したボートはこんなものでした。二組の夫婦では少し贅沢すぎるかな？というサイズですが、狭い船の中で一週間を快適に過ごすには最小限のプライバシーはほしいところです。本当は、二寝室・二浴室があればいいのですが、水域ごとの貸ボート業者が必ずしも希望通りのボートを用意しているとは限りません。

ボートのサイズや設備と、クルーズ水域と、どちらの希望を優先させるかによりますが、私たちは水域の希望を優先させたので、その範囲内ではこのボートがベスト・チョイスだったのです。

**Extremely comfortable new narrowboat, ideal for family or friends**

- Sleeping accommodation in three separate cabins
- Comfortable and spacious saloon
- 240v electricity supply
- Microwave
- DVD player
- Radio/cassette
- Hairdryer

**Cruiser stern**  
2 singles & 2 doubles or 3 doubles in 3 cabins  
2 toilets

Subject to modification during construction  
Regret no pets

Length: 65ft (19.81m)

ここで、左下の **Regret no pets** というコメントを見てください。

これは「申し訳ありませんがペットの持ち込みはお断りします」ということですが、この欄に **Regret no all male / all female group** (同性だけのグループはお断り) という風に表示してあるボートが結構あります。別にボートのサイズには関係がないようです。再び、**Why?**

さて、ボートは決まった、で、どこをクルーズするか？ それは、また今度。